



▶筑前津屋崎人形巧房



▶陶芸工房 夢かしこ



ふくじゆ 福珠のモマ

福珠のモマは、宮地嶽神社の祭事である「玉替祭」の由来となった、モマの伝承にちなんだ縁起物です。福津の極みに認定された工芸事業者「筑前津屋崎人形巧房」「マルティグラス」「陶芸工房 夢かしこ」の作り手が多くの願いを込めて作っています。

たまがえさい

▶マルティグラス



▲福珠のモマについて教えてくれた市商工会の小幡慈朗さん

正月に (福津の極みの) 店を開店します

福津の極みを正月限定で、宮地嶽神社の参道沿いの「福津の極みの店」で販売します。福珠のモマや来年の干支・子などの縁起物の工芸品、黒豚まんなどを販売します。

期間 令和2年1月1日(水・祝) ~ 1月6日(月) 9:00~17:00

出店者 マルティグラス、陶芸工房 夢かしこ、ぎょうざの山八 ※筑前津屋崎人形巧房の福珠のモマは直接店舗でお買い求めください

問い合わせ 市商工会 ☎42・0315

今月は福津の極みに認定された工芸事業者の皆さんが作る「福珠のモマ」を取材しました。

思い★キラリ

昔から福津ではフクロウのことをモマと呼んでいました。また、宮地嶽神社の周辺の地域には、山中で道に迷った正直者がモマの鳴き声に誘われてついで行くと「金の玉」を授かったという伝承があります。この伝承から「正直に生きると福を授かる」とモマは縁起の良い鳥と珍重され、この伝承をもとに作られたものが「福珠のモマ」です。

市商工会の小幡慈朗さんによると、福珠のモマは商工会から市内の工芸事業者にモマの伝承にちなんだ工芸品開発の企画を提案したことがきっかけで誕生したそうです。福珠のモマは市内の3つの事業者が作っています。デザインや素材は製作者独自のものとなっていて、商売繁盛や開運招福、家内安全、無病息災などの思いが込められています。小幡さんは「福津ならではの縁起物として皆さんに愛される逸品になれば」と話してくれました。